



東京大と産業技術総合研究所(茨城県つくば市)の調査団が、鹿児島県・奄美諸島の喜界島の沖合で、直径約4メートル、高さ約5メートルの国内最大級のハマサンゴを発見した。メンバーが今月8日に確認。ドーム形で、約400年前から成長を続けてきたとみられる。調査団は、海水温が成長の速さに影響を与える

喜界島沖で発見されたハマサンゴ(8日) 横山 祐典東京大准教授提供

## 国内最大級のハマサンゴ 奄美諸島・喜界島沖

といわれるサンゴから地球温暖化による気候変動を調べている。年輪のようになっている断面の各層を化学解析することで、過去400年間の水温や、海水の酸性化の度合いを示す水素イオン指数(pH)の推移が月単位で分かるという。調査団長の横山祐典准教授(39)は「温室効果ガスが増え始めた産業革命以前のデータを得ることで、西太平洋の長期の気候変動を解明でき、貴重だ」と話している。